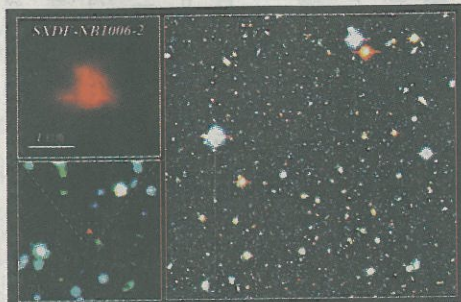




右はすばる・XMMニュートン深宇宙
探査領域の一部。左下に拡大した領域
の中央にSXD F-NB1006-2
(左上)があります(国立天文台提供)

「宇宙の夜明け」に迫る

最遠方の銀河発見

総合研究大学院大学、国立天文台、京都大学などの研究グループは、4日、すばる望遠鏡などを使った観測で、地球から129億1000万光年離れた銀河SXD F-NB1006-2を発見したと発表しました。距離が確定した銀河の中で

は最も遠くにあります。

総研大の大学院生、澁谷隆俊さんたちは、「すばる深宇宙探査領域」すばる・XMMニュートン深宇宙探査領域」の空域を観測して遠方の銀河を探し、SXD F-NB1006-2を発見しました。SXD F-NB1006-2では、電離していない水素原子が約80%と推定され、再電離の初期の状態を表していると考えられます。

宇宙誕生から数億年後に星や銀河の形成が始まる

と、星からの強い紫外線

で、宇宙に存在した水素原

子は陽子、電子に分かれま

した。「宇宙の再電離」、あ

るいは「宇宙の夜明け」と

も呼ばれています。